

## 未来を拓く研究改革：山口大学におけるイノベーション・エコシステムと社会貢献

### ■ これまでの取組状況

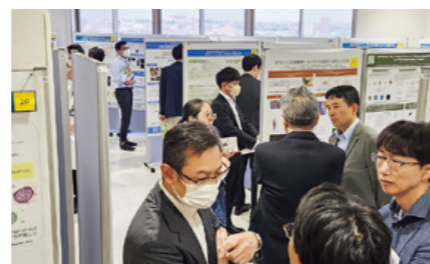
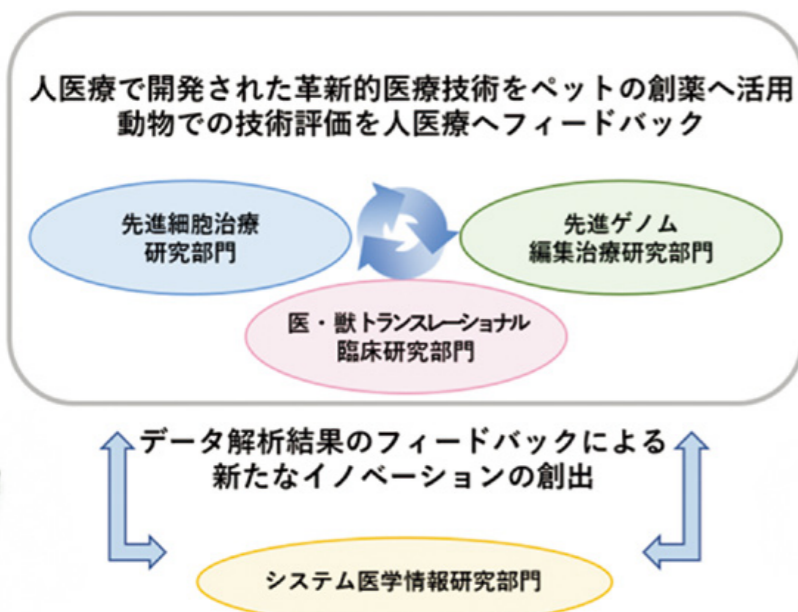
令和6年度末までに、「予防医学推進コホート研究センター」「地域レジリエンス研究センター」「細胞デザイン医科学研究所」「One Welfare国際研究センター」をトップダウン型産学公連携研究拠点に認定し、地域課題解決型のオープンイノベーションを着実に加速させています。時間学研究所の拡充、細胞デザイン医科学研究所の設立、また、先進的な医用AI技術の開発や個人情報保護に配慮した「院内完結型自然言語処理システム」の構築により、世界をリードする研究領域を創造しています。研究推進体の成果発信の支援を強化するとともに、認定から3年が経過した研究推進体の成果報告会を実施し、研究進捗の可視化とフィードバック体制を確立して、学際的基礎研究を推進しています。共用機器の利用実績や論文発表、外部資金獲得状況といった成果を把握するシステムを開発し、研究資源の効率的な活用と研究成果の最大化に貢献しています。「グリーン社会推進研究会」の活動を強化し、令和6年度末には会員数が276名（法人等の機関を含む）に達しており、地域課題解決とグリーン社会の実現に向けた具体的な足掛かりを創出しています。これらの取組により、社会のニーズ変化に対応した知を持続的に創出する体制の構築を確実に進めています。



研究ビジョン  
担当副学長  
佐藤 晃一

### 01 【人と動物の医療に革新】 細胞デザイン医科学研究所：医・獣トランスレーショナル研究を推進する拠点

細胞デザイン医科学研究所は、細胞デザインやゲノム編集といった最先端の医療技術に特化した日本初の研究所として令和5年10月に設立されました。目的に応じて細胞、遺伝子、微生物等を人工的に改変することで、がん等の難治性疾患の革新的な治療法や薬を創出し、人と動物の健康を支える国際研究開発拠点を目指しています。研究所の大きな特色は、人と動物の医療がともに進展するイノベーション・エコシステムの構築を目指している点です。人の先端医療を動物に応用し、動物で得られたデータを人医療にフィードバックする「医・獣トランスレーショナル研究」を推進しています。



▲【セル研コロキウム】  
自由討論・交流セッション



### 02 【研究機器インストラクター制度】 共用機器管理を通じた学生の専門性獲得と研究活動の活性化

「研究機器インストラクター制度」は、本学独自の研究活動加速化プログラムです。教員・技術職員の指導の下、研究機器インストラクターに認定された学生が、学内の共用機器の利用支援と維持管理の主要な担い手となります。

この制度の最大の目的は、研究者や機器管理者の負担を大幅に軽減し、研究に専念できる時間の確保に貢献することです。これにより、本学の研究活動を一層加速させ、その質と量を高める重要な役割を果たしています。さらに、支援を担う学生にとっても、機器の専門知識と実践的な管理能力を習得することで、自身の研究力向上と将来のキャリア形成に直接的に資するメリットも有しています。



### 03 【総合知を結集】 山口大学グリーン社会推進研究会：脱炭素と地域イノベーションへの挑戦

山口大学グリーン社会推進研究会は、カーボンニュートラルの達成等、人類の存続に直結するグリーン社会の実現を目標に、令和4年3月に設立されました。

特に、温室効果ガス排出割合が大きい山口県において、地域ゼロカーボンに向けた取組を喫緊の課題としています。本研究会の最大の特色は、人文・社会科学から自然科学まで、大学の「総合知」を結集し、課題解決に貢献する点です。

この総合知を基に、水素関連技術、グリーンプロセス、社会システム、電池・電源等、多岐にわたる8つの専門部会を設置し、分野横断的な活動を行っています。本研究会設立以降、会員教員と会員企業等との共同研究・受託研究・学術指導は、合計32件・受入総額約5,500万円となっており、大きな成果を上げています。

